第Ⅰ部

平成26年産の事業運営の内容

１　平成 26 年産大豆入札取引の概況

（１）取引参加者登録状況

平成 26 年産大豆入札取引の売り手登録者は、前年産と同じく全農及び全集連の 2 者であった。

買い手登録者は、法人、個人を合わせた事業体ベース 166 者、事業所（同一法人の本社、支社等の複数事業所を別々に登録した場合）ベース 172 者で、いずれも前年産より 4 者減少した（図表Ｉ－1－1）。

（２）入札取引開催状況と入札参加状況

入札取引は、平成 26 年 11 月 26 日から平成 27 年 7 月 29 日まで 13 回開催した。その月別内訳は、11 月から 3 月までは月に 1 回、4 月から 7 月までは月に 2 回である（図表Ｉ－1－2）。

各入札回における買い手登録者の参加状況をみると、最も参加者数が多かったのは第 5 回（3 月 18 日）の 105 者、最も少なかったのは第 13 回（7 月 29 日）の 60 者であった。入札参加者数を前年産の同時期と比較すると、序盤は大幅に上回り、中盤から終盤にかけては若干上回るか又は同数で推移したが、最終盤には下回るに至り、前年産から引き続いた高進傾向から徐々に沈静化するに至る経過をたどった（図表Ｉ－1－3）。

また、買い手登録者の入札参加頻度の階層別割合を前年産と比較すると、全 13 回のうち 6 回～10 回及び 11 回以上の者の割合が、それぞれ 13%から 19%、31%から 37%に増加する一方、0 回及び 1～5 回の者の割合は、それぞれ 35%から 29%、21%から 16%に減少しており、より積極的に入札取引に参加する状況が見られた（表Ｉ－1－4）。

（３）国産大豆の供給と入札取引数量

平成 26 年産大豆の作付面積は全国で 131,600ha、単収は 176kg／10a であった。気象災害等により減産となった前年産との対比では、それぞれ 102%、114%であった。なお、単収の「10a 当たり平均収量」（直近 7 か年のうち最高、最低を除いた 5 か年の平均値）との対比は 104%であった。収穫量は前年産より 31,900ｔ増加し、前年産対比 116%の 231,700ｔとなった（図表Ｉ－1－5）。

集荷団体（全農及び全集連）による集荷実績数量は 182,216 トン、前年対比 118%、27,603 トンの増となり、生産計画の集荷予定数量（182,644 トン）をほぼ達成した。売り手の販売数量を入札取引、相対取引、契約栽培取引の 3 種類の販売方法別数量に区分してみると、販売総数量が前年産を上回る中で、入札によ

る販売数量は前年産を 16,467 トン上回る 57,210 トン、契約栽培取引による数量は前年産を 5,478 トン上回る 94,497 トン、相対取引による数量は前年産を 5,657 トン上回る 30,509 トンとなった（図表Ｉ－1－8、9)。集荷数量（＝販売総数量）に対する入札取引による販売数量（＝落札数量）の割合は、前年産の 26.4%を上回る 31.4%となった。一方、契約栽培取引は前年産を 5.7%下回る 51.9%、相対取引は前年産を 0.7%上回る 16.7%となった。

平成 16 年産から 26 年産までの月別落札数量と平均落札価格の推移をグラフに示す（図表Ｉ－1－7)。落札数量は、平成 19 年産に増加した後、22 年産までは低い水準で推移したが、23 年産から増加傾向に転じた。25 年産は台風被害等により前年産より減少したものの、26 年産は再び増加し、概ね 19 年産の水準まで回復した。

産地品種銘柄毎の集荷数量と落札数量を比較したのが図表Ｉ－1－10 である。集荷数量に対する落札数量の割合（落札割合）は、主要産地品種銘柄では概ね 3 分の 1 であったが、納豆に用いられる小粒・極小粒の主要銘柄である北海道スズマル及び茨城納豆小粒や、中粒・大粒銘柄でも気象災害等による減収があった佐賀フクユタカは、およそ 2 割前後であった。

（4）入札・落札状況

入札状況を上場・入札ロット数の比較でみると、全期間を通じて入札ロット数が上場ロット数を上回り、各回の入札ロット数を上場ロット数で除した割合（入札倍率）は 4～9 倍で、年産平均では 5.4 倍となり、前年産の 6.3 倍をやや下回る水準となった（図表Ｉ－1－2、図表Ｉ－1－11)。

落札区分の内訳をみると、従来、入札価格が落札下限価格に満たないことによる不落札（未達）が初期の入札回に多く発生し、入札回が進むにつれ見られなくなっていたが、平成 26 年産では初期入札回の未達の割合は例年より少なかったが、その後も若干の未達の発生が見られた（図表１－1－12)。

入札回ごとの上場数量に対する落札数量の割合（落札率）は、93～100%と高水準で推移し、年産平均は 96.3%で、平成 25 年産の 93.4%を上回った(図表Ｉ－1－13)。

（5）落札価格

１俵(60kg)当たり年産平均落札価格は、13,380 円であった(図表Ｉ－1－13)。当協会が入札取引を開始した平成 12 年産以降の年産別平均落札価格の推移をみると、当初 5 千円前後で推移していたが、15・16 年産で作柄不良により急激に高騰した。その後、7 千円前後で推移していたが、23・24 年産で 8 千円台に上昇した。さらに 25 年産では 14,168 円と大幅に高騰し、16 年産（15,836 円）に次

ぐ高価格となったが、26 年産はこれらに次ぐ過去 3 番目に高い価格水準であった（図Ⅰ－1－15）。

平成 26 年産の月別平均価格の推移を見ると、前年産同期を 3 千円以上も上回る 1 万 1 千円台で始まり、入札回を重ねる度に上昇し、4～5 月には 1 万 5 千円台まで高騰したが、その後は沈静化に向かい、入札開始時とほぼ同水準まで下げて当年産の取引を終了した（図表Ⅰ－1－14）。

産地品種銘柄別の年産平均落札価格をみると、銘柄によりまちまちであるが、九州産のフクユタカが上位を占めた。また、前年産との比較では、青森おおすず、佐賀フクユタカ、千葉フクユタカ、岩手ナンブシロメが 2 千円以上高い価格となった。一方、宮城ミヤギシロメ、茨城タチナガハ、福島タチナガハは、前年産より 3 千円以上低い価格となった（図表Ⅰ－1－16）。

主要産地品種銘柄のうち、代表的なものの月別落札価格の推移をグラフで示す。（図表Ⅰ－1－17）。11 月から取引が始まった北海道とよまさりの落札価格は 11 千円強、新潟エンレイは 13 千円弱と前年産同期より 3～5 千円高い水準でスタートした。また、1 月から取引が始まった宮城ミヤギシロメは 12 千円台半ば、愛知フクユタカは 14 千円強、佐賀フクユタカは 16 千円弱と、前年同期より 5～7 千円高い水準でスタートした。前年産の上場開始時の価格水準は、各産地品種銘柄とも 8～9 千円であったが、これと比較すると平成 26 年産はスタート時から産地品種銘柄間で価格のバラツキが大きかった。

3 月に入ると、佐賀フクユタカの価格が急騰し、5 月には 2 万円に迫る水準まで達したが、その後は反落し、スタート時より低い 15 千円弱で終了した。その他の主要産地品種銘柄では、宮城ミヤギシロメは 12 千円前後で比較的安定的に推移したが、それ以外の産地品種銘柄は、佐賀フクユタカに追随する形で価格が変動した。ただし、スタート時から産地品種銘柄により価格水準のバラツキが大きかったうえ、その後の価格の上昇・下降の程度やタイミングも一様ではなく、価格の月別推移は、産地品種銘柄によりかなり異なる様相を呈することとなった。

上記の産地品種銘柄のほか、専ら納豆の原料に供される小粒品種の代表的存在である北海道スズマル及び北海道ユキシズカの月別落札価格の動向を見ると、平成 25 年産では、他品種銘柄の価格上昇に追随して一旦高騰したものの、とよまさり等の他品種銘柄に先んじて反落する動きを見せたが、平成 26 年産では 10 千円前後で比較的安定的に推移した（図表Ⅰ－1－18）。

（6）北海道とよまさりの品種別落札状況

複数品種で構成される品種群銘柄である北海道とよまさりの構成品種別の落札状況を示す（図表Ⅰ－1－19）。

落札数量が品種群全体の大宗（83%）を占めるユキホマレの価格は、とよまさり全体とほぼ同一の動きをみせた。一方、ユキホマレに次ぐ落札数量（7%）のトヨムスメは終始 13 千円前後で推移し、5 月から上場されたトヨホマレは 12 千円台と同時期の他品種の価格より 1～2 千円低めで推移した。

平成 25 年から上場されるようになった豆腐加工適性の高い新品種「とよみづき」は 1 月から上場され、前半の入札回ではユキホマレを上回る価格であったが、後半は 1 千円程度下回る価格で推移した。このように品種別に見ると、上場数量が大幅に異なるうえ、主な用途が異なることもあって、価格の動きは一様ではなかった。

（7）内外価格比較

内外の大豆価格の推移を示す（図表Ⅰ－1－20）。

国産大豆の平成 26 年産に対応する期間（平成 26 年 11 月～平成 27 年 10 月）の輸入大豆全体（大部分は搾油原料用）の月別輸入価格は、60kg 当たり 3,600～4,000 円で推移し、同期間の平均は約 3,900 円で、前年と比べ 250 円（6%）程度低下した。

一方、主に食品原料用と考えられる海上コンテナ輸送による輸入大豆の月別価格は 5,200～5,800 円で推移し、同期間の平均は約 5,600 円で、前年と比べ 320 円（6%）程度上昇した。内外価格差（国産大豆入札価格とコンテナ輸送による輸入大豆価格の差）は、このような輸入価格の若干の上昇に加え、国産価格が前年産より約 800 円低下したこともあり、前年より約 1,100 円縮小して 8 千円弱となったが、依然として大きな差があることに変わりはない状況にある（図表Ⅰ－1－21）。

平成26年産大豆入札取引年報

Ⅰ－1　図･表

図表Ⅰ－1－1　登録者数推移

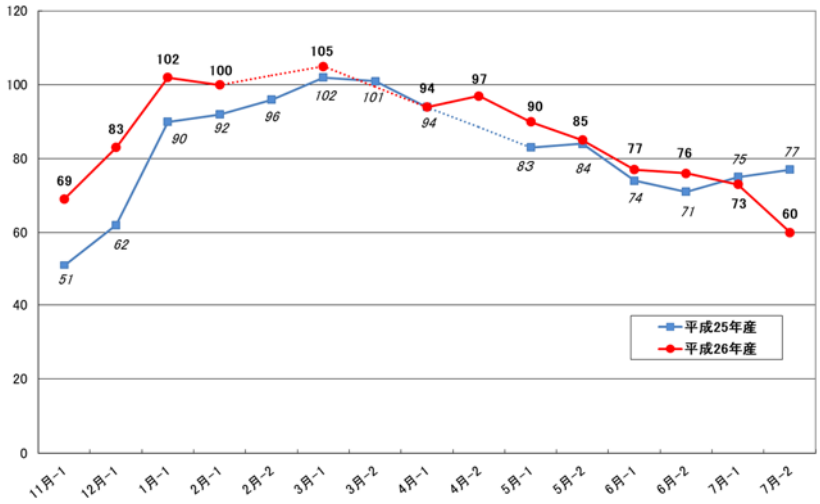
年産	売り手		買い手	
	登録者数	うち 全国団体	登録者数 （事業体数）	（事業所数）
平成12年産	6	2	140	
平成13年産	2	2	148	
平成14年産	2	2	161	
平成15年産	2	2	180	187
平成16年産	2	2	185	193
平成17年産	2	2	181	189
平成18年産	2	2	184	192
平成19年産	2	2	180	187
平成20年産	2	2	182	189
平成21年産	2	2	184	191
平成22年産	2	2	180	187
平成23年産	2	2	167	173
平成24年産	2	2	170	176
平成25年産	2	2	170	176
平成26年産	2	2	166	172
前年産からの増減	0	0	-4	-4
前年産買い手登録者のうち平成26年産の登録をしない者			10	10
新規買い手登録者			6	6

注：｛買い手登録者数（事業所数）｝は、同一企業で複数の事業所（本店、支店等）を登録した場合、それぞれを1と数えた数である。

図表Ⅰ－1－2　平成26年産大豆入札取引開催状況

入札回	入札日	上場者 者	入札者 者	ロット数		
				上場（A）	入札（B）	入札倍率（B/A）
1	平成26年11月26日	1	69	172	1,550	9.0
11月計				172	1,550	9.0
2	12月17日	1	83	338	2,203	6.5
12月計				338	2,203	6.5
3	平成27年1月21日	2	102	845	3,759	4.4
1月計				845	3,759	4.4
4	2月18日	2	100	835	3,923	4.7
2月計				835	3,923	4.7
5	3月18日	2	105	814	3,863	4.7
3月計				814	3,863	4.7
6	4月8日	2	94	343	2,351	6.9
7	4月22日	2	97	358	2,470	6.9
4月計				701	4,821	6.9
8	5月13日	2	90	384	2,581	6.7
9	5月27日	2	85	426	2,286	5.4
5月計				810	4,867	6.0
10	6月10日	2	77	358	2,109	5.9
11	6月24日	1	76	363	1,870	5.2
6月計				721	3,979	5.5
12	7月15日	1	73	328	1,552	4.7
13	7月29日	2	60	308	1,436	4.7
7月計				636	2,988	4.7
年産計				5,872	31,953	5.4

図表Ⅰ－1－3　各回入札者数推移



図表Ⅰ－1－4　入札参加回数別買い手登録者数（年産比較）

参加回数階層区分	平成24年産（12回開催）	平成25年産（14回開催）	平成26年産（13回開催）	参加回数階層区分別構成比率		
				平成24年産	平成25年産	平成26年産
入札参加回数0回	56	51	49	31.8%	29.0%	28.5%
入札参加回数1～ 5回	36	37	27	20.5%	21.0%	15.7%
入札参加回数6～10回	37	23	33	21.0%	13.1%	19.2%
入札参加回数11回以上	47	65	63	26.7%	36.9%	36.6%
計（買い手登録者数）	176	176	172	100.0%	100.0%	100.0%

図表Ⅰ－1－5 大豆生産概況

		22年産	23年産	24年産	25年産	26年産	対前年増減
作付面積(ha)	全国	137,700	136,700	131,100	128,800	131,600	2,800
	北海道	24,400	26,400	27,200	26,800	28,600	1,800
	都府県	113,200	110,300	103,900	102,000	103,000	1,000
	東北	37,700	35,200	32,700	32,200	32,100	−100
	北陸	14,600	14,000	13,100	12,600	12,600	0
	関東・東山	13,500	12,400	11,100	10,600	10,300	−300
	東海	11,100	11,600	11,500	11,700	11,800	100
	九州	21,100	22,000	20,900	20,400	21,500	1,100
	その他	15,200	15,100	14,600	14,500	14,700	200
収穫量(t)	全国	222,500	218,800	235,900	199,900	231,800	31,900
	北海道	57,800	59,900	68,000	61,400	73,600	12,200
	都府県	164,700	158,900	167,900	138,500	158,200	19,700
	東北	48,100	47,700	50,000	38,700	49,800	11,100
	北陸	20,000	19,800	23,300	17,900	21,200	3,300
	関東・東山	16,400	17,300	17,600	15,600	15,700	100
	東海	17,500	12,300	16,100	12,900	14,700	1,800
	九州	43,800	43,700	40,100	35,200	36,100	900
	その他	18,900	18,100	20,800	18,200	20,700	2,500
単収(kg/10a)	全国	162	160	180	155	176	21
	北海道	237	227	250	229	257	28
	都府県	145	144	162	136	154	18
	東北	128	136	153	120	155	35
	北陸	137	141	178	142	168	26
	関東・東山	121	140	159	147	152	5
	東海	158	106	140	110	125	15
	九州	208	199	192	173	168	−5
	その他	124	120	142	126	141	15

資料：農林水産省作物統計

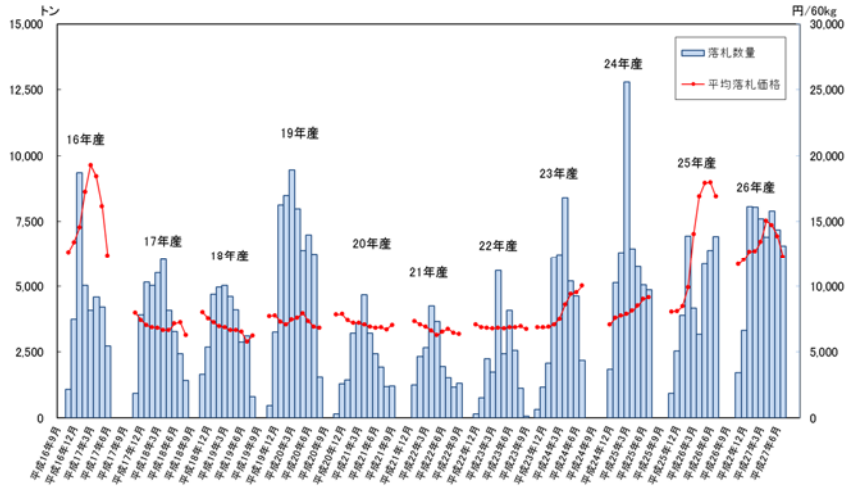
図表Ⅰ－1－6 国産大豆供給の推移

区分	事項	(単位)	平成22年産	平成23年産	平成24年産	平成25年産	平成26年産	前年対差
生産実績(作物統計)	a1 作付面積	ha	137,700	136,700	131,100	128,800	131,600	2,800
	a2 単収	kg/10a	162	160	180	155	176	21
	a3 収穫量	トン	222,500	218,800	235,900	199,900	231,800	31,900
	b1 検査総数量	トン	188,022	187,645	204,625	173,325	206,374	33,049
	b2 普通・特定加工用	トン	186,237	185,788	202,952	171,879	204,599	32,720
	b3 種子用	トン	1,785	1,858	1,673	1,446	1,775	329
農家消費等	a3−b1	トン	34,478	31,155	31,275	26,575	25,426	−1,149
生産者団体等集荷数量	c1 生産計画作付面積	ha	113,432	111,421	106,224	106,234	108,267	2,033
	カバー率c1/a1	%	82.4%	81.5%	81.0%	82.5%	82.3%	
	c2 生産計画集荷予定数量	トン	190,727	198,724	180,827	180,323	182,644	2,321
	c3 集荷見込数量	トン	188,102	180,826	174,964	176,609	171,350	−5,259
	c3+ 同上変更後	トン				156,638		
	c4 集荷実績数量	トン	173,963	171,599	185,424	154,577	182,216	27,639
集荷外数量	b2−c4	トン	12,274	14,189	17,528	17,302	22,383	5,081
生産者団体等販売数量	d1 入札販売予定数量	トン	62,495	59,855	57,970	57,860	56,678	−1,182
	d1+ 同上変更後	トン				44,863		
	d2 落札数量	トン	20,667	36,202	48,153	40,749	57,210	16,461
	d3 契約栽培取引・相対 取引計 c4−d2	トン	153,296	135,397	137,271	113,827	125,006	11,178
入札取引の割合	d2/c4	%	11.9%	21.1%	26.0%	26.4%	31.4%	

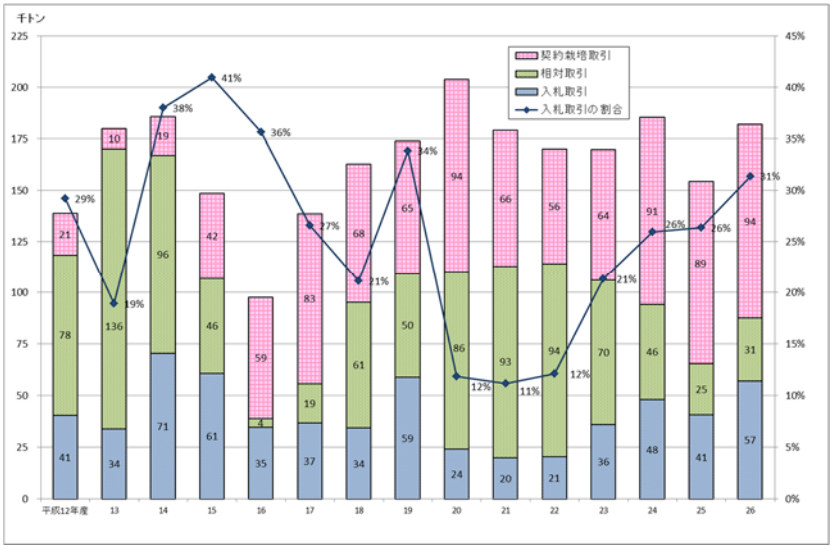
資料：農水省「作物統計」、農水省「農産物検査結果」、売り手報告、当協会業務資料

注：
a1～a3 平成26年産は、平成27年8月5日農水省公表の4月17日確定値の修正値である。
b1～b3 平成26年産は、平成27年6月5日公表確定値である。
c3 集荷見込数量は、年産取引開始時点での計画数量である。
c3+ 平成25年産の集荷見込数量(変更後)は、入札販売計画(平成26年3月変更)の数量である。
c4 平成26年産は、平成28年2月時点の売り手報告による数量である。

図表Ⅰ－1－7　月別落札数量・平均落札価格の推移



図表Ⅰ－1－8　取引方法別販売数量の推移（グラフ）



資料：売り手（全農及び全集連）からの報告による。

図表Ⅰ－1－9　取引方法別販売数量の推移（表）

年産	数量（トン）				割合（%）		
	入札取引	相対取引	契約栽培取引	計	入札取引	相対取引	契約栽培取引
平成12年産	40,563	77,768	20,541	138,872	29.2%	56.0%	14.8%
13	34,051	136,313	9,624	179,988	18.9%	75.7%	5.3%
14	70,637	96,458	18,767	185,862	38.0%	51.9%	10.1%
15	60,936	45,893	41,993	148,822	40.9%	30.8%	28.2%
16	34,772	4,164	58,701	97,637	35.6%	4.3%	60.1%
17	36,866	18,835	83,034	138,735	26.6%	13.6%	59.9%
18	34,407	60,983	67,629	163,019	21.1%	37.4%	41.5%
19	58,879	50,410	64,540	173,829	33.9%	29.0%	37.1%
20	24,211	86,075	93,599	203,885	11.9%	42.2%	45.9%
21	19,980	92,925	66,363	179,268	11.1%	51.8%	37.0%
22	20,601	93,610	56,110	170,321	12.1%	55.0%	32.9%
23	36,191	69,852	63,848	169,891	21.3%	41.1%	37.6%
24	48,153	46,168	91,152	185,473	26.0%	24.9%	49.1%
25	40,742	24,852	89,019	154,613	26.4%	16.1%	57.6%
26	57,210	30,509	94,497	182,216	31.4%	16.7%	51.9%
前年対差（%ポイント差）	16,467	5,657	5,478	27,603	5.0%	0.7%	−5.7%

資料：売り手（全農及び全集連）からの報告による。

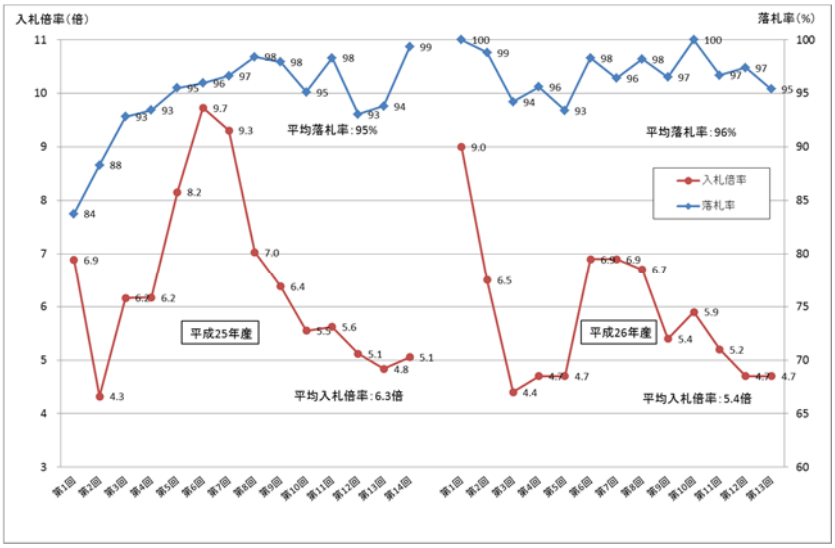
図表Ⅰ－1－10　産地品種銘柄別総販売数量、入札取引数量及び入札取引割合

単位：トン

産地品種	総販売数量	入札取引数量	入札取引割合
北海道とよまさり	40,601	13,579	33.4%
福岡フクユタカ	13,428	4,477	33.3%
佐賀フクユタカ	12,596	2,841	22.6%
北海道ユキシズカ	7,991	2,538	31.8%
秋田リュウホウ	7,366	2,531	34.4%
新潟エンレイ	7,120	2,398	33.7%
宮城ミヤギシロメ	6,831	2,436	35.7%
愛知フクユタカ	6,751	2,217	32.8%
富山エンレイ	5,685	1,895	33.3%
宮城タチナガハ	5,377	1,829	34.0%
青森おおすず	4,461	1,563	35.0%
宮城タンレイ	4,425	1,461	33.0%
北海道スズマル	3,648	880	24.1%
三重フクユタカ	3,398	1,148	33.8%
熊本フクユタカ	3,073	1,049	34.1%
茨城タチナガハ	3,051	1,049	34.4%
山形エンレイ	2,962	1,041	35.2%
滋賀フクユタカ	2,835	960	33.9%
岐阜フクユタカ	2,805	931	33.2%
滋賀ことゆたか	2,393	990	41.4%
岩手リュウホウ	2,267	873	38.5%
栃木里のほほえみ	2,117	676	31.9%
佐賀むらゆたか	2,083	610	29.3%
山形里のほほえみ	1,798	633	35.2%
長野ナカセンナリ	1,588	531	33.5%
栃木タチナガハ	1,559	531	34.0%
滋賀オオツル	1,444	464	32.2%
石川エンレイ	1,332	446	33.4%
茨城納豆小粒	1,255	208	16.6%
北海道音更大袖振	1,111	324	29.2%
福井里のほほえみ	1,104	376	34.1%
富山シュウレイ	984	330	33.5%
大分フクユタカ	976	339	34.7%
岩手ナンブシロメ	927	418	45.0%
滋賀タマホマレ	763	257	33.8%
山形リュウホウ	747	258	34.5%
山口サチユタカ	689	238	34.5%
福島タチナガハ	634	222	35.1%
北海道秋田	620	205	33.0%
鳥取サチユタカ	608	208	34.2%
北海道ハヤヒカリ	591	192	32.5%
石川里のほほえみ	588	196	33.3%
宮城あやこがね	482	24	4.9%
千葉フクユタカ	417	120	28.8%
島根サチユタカ	396	50	12.5%
長崎フクユタカ	396	10	2.5%
新潟あやこがね	374	31	8.2%
愛媛フクユタカ	360	79	22.0%
北海道ツルムスメ	353		
茨城ハタユタカ	323		
福島あやこがね	312	20	6.3%
富山オオツル	281	20	7.1%
兵庫サチユタカ	262		
兵庫その他	261		
福井エンレイ	205	69	33.8%
広島サチユタカ	188		
山形あやこがね	181	10	5.7%
山口フクユタカ	181	79	43.8%
埼玉タチナガハ	175		
長野すずほまれ	164		
大分トヨシロメ	162		
宮城きぬさやか	162		
静岡フクユタカ	160	50	31.0%
岡山トヨシロメ	151	50	32.8%
鹿児島フクユタカ	148		
栃木納豆小粒	145		
宮崎フクユタカ	142		
宮城すずほのか	135		
長野ギンレイ	131	30	22.7%
兵庫夢さよう	130		
富山その他	125		
島根タマホマレ	124	30	24.0%
秋田コスズ	115		
福岡すずおとめ	112		
群馬タチナガハ	112	22	20.0%
島根フクユタカ	111	30	26.7%
長野つぶほまれ	109		
北海道大袖振	96		
北海道大袖の舞	95		
千葉サチユタカ	93	30	31.9%
青森オクシロメ	90	20	22.0%
鳥取タマホマレ	80	30	37.0%
山形すずかおり	76		
茨城その他	74		
熊本すずおとめ	70		
新潟タチナガハ	68		
石川あやこがね	68		
新潟その他	59		
山形タチユタカ	54		
岡山サチユタカ	53		
奈良サチユタカ	53		
高知フクユタカ	50		
石川フクユタカ	50		
大分すずおとめ	49		
岩手シュウリュウ	47		
岩手ミヤギシロメ	46	20	43.6%
千葉タチナガハ	44	32	74.0%
岐阜タチナガハ	43		
滋賀エンレイ	40		
熊本むらゆたか	38		
広島あきまろ	38		
島根ナカセンナリ	37		
三重すずおとめ	33		
埼玉白光	29		
長野すずろまん	26		
福岡むらゆたか	22		
北海道その他	21		
鳥取その他	20		
群馬ハタユタカ	20	7	36.8%
岩手青丸くん	20		
北海道ゆきひりか	20		

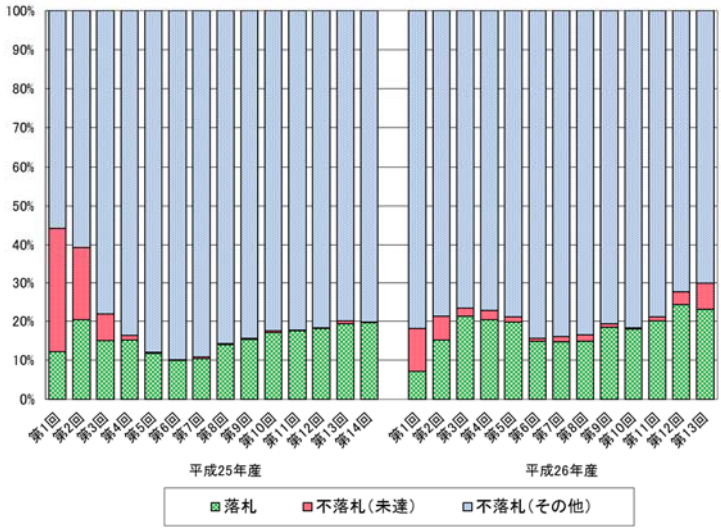
注：総販売数量は売り手（全農及び全集連）からの報告による。総販売数量20トン以下の産地品種は掲載を省略した。

図表Ⅰ－1－11　入札回別入札倍率･落札率推移



注:入札倍率＝入札ロット数÷上場ロット数、　落札率＝落札ロット数÷上場ロット数

図表Ⅰ－1－12　落札結果区分別割合



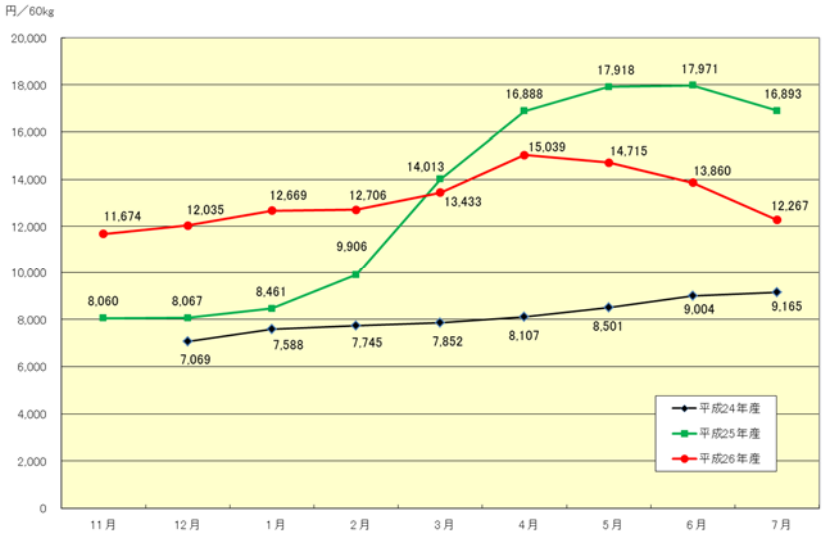
注:入札回ごとの入札ロット数の延べ合計を100とした場合の落札結果区分別ロット数の割合を示した。
「不落札(未達)」とは、入札価格が落札下限価格未満のため不落札となったものである。

図表Ⅰ－1－13　月別上場･落札数量、平均落札価格及び落札率

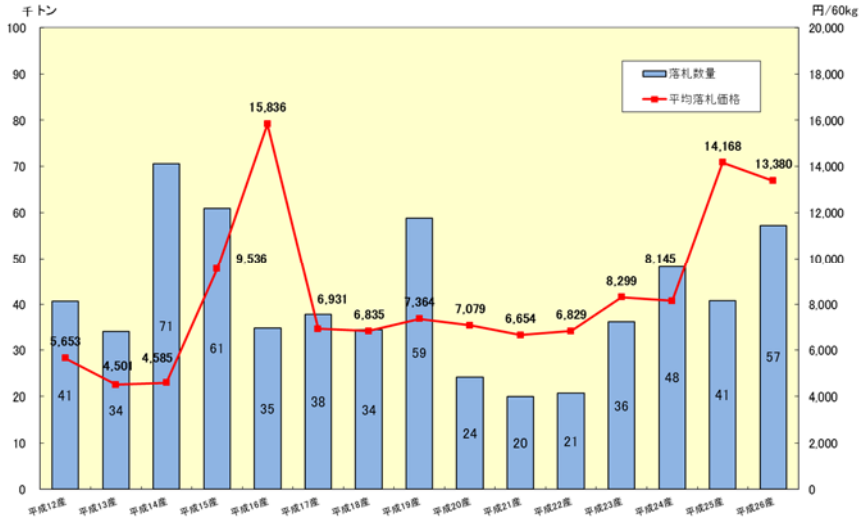
入札回	上場数量 トン	落札数量 トン	平均落札価格 円/60kg	落札率 %
平成26年11月	1,708	1,708	11,674	100.0
12月	3,347	3,308	12,035	98.8
平成27年 1月	8,551	8,056	12,669	94.2
2月	8,409	8,042	12,706	95.6
3月	8,124	7,590	13,433	93.4
4月	7,073	6,887	15,039	97.4
5月	8,119	7,902	14,715	97.3
6月	7,282	7,161	13,860	98.3
7月	6,804	6,557	12,267	96.4
平成26年産計	59,418	57,210	13,380	96.3
平成25年産計	43,613	40,749	14,168	93.4

注：上場数量及び落札数量は、普通大豆と特定加工用大豆の合計値
　　平均落札価格は、月別の普通大豆と特定加工用大豆の加重平均落札価格
　　落札率は、上場ロット数に対する落札ロット数の割合

図表Ⅰ－1－14　月別平均落札価格の推移（年産比較）



図表Ⅰ－1－15　年産別平均落札価格・落札数量推移



図表Ⅰ－1－16　産地品種銘柄別落札実績

落札価格上位銘柄と下位銘柄（平成26年産）

単位：円/60kg、トン

上位銘柄				下位銘柄			
順位	産地品種	落札価格	落札数量	順位	産地品種	落札価格	落札数量
1	佐賀フクユタカ	17,585	2,841	1	北海道ユキシズカ	9,521	2,538
2	福岡フクユタカ	17,448	4,477	2	茨城納豆小粒	9,901	208
3	熊本フクユタカ	17,355	1,049	3	北海道ハヤヒカリ	10,134	192
4	大分フクユタカ	17,295	339	4	北海道スズマル	10,175	880
5	佐賀むらゆたか	16,503	610	5	岩手ナンブシロメ	10,687	418
6	滋賀フクユタカ	15,855	960	6	福島タチナガハ	10,743	222
7	三重フクユタカ	15,819	1,148	7	茨城タチナガハ	11,550	1,049
8	山口サチユタカ	15,735	238	8	宮城タンレイ	11,582	1,461
9	鳥取サチユタカ	15,439	208	9	山形リュウホウ	11,756	258
10	岐阜フクユタカ	15,406	931	10	北海道秋田	11,772	205

注：落札数量100トン以上の産地品種銘柄について整理した。

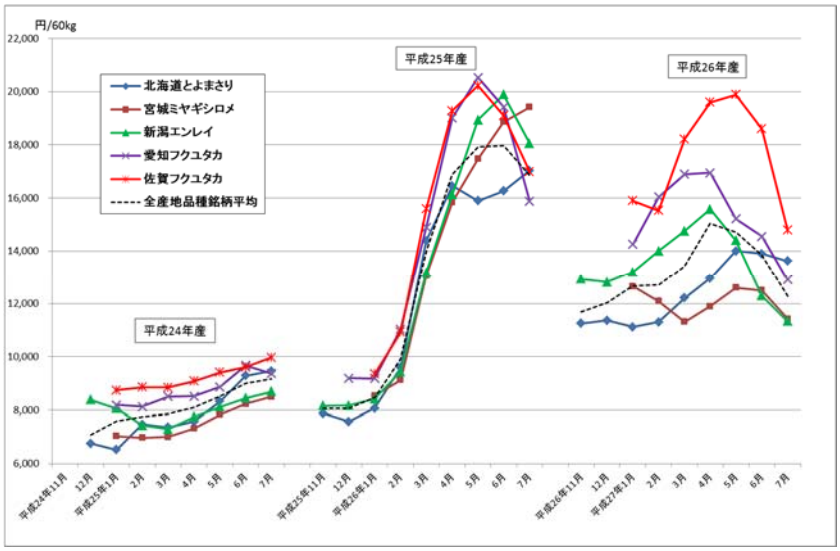
落札価格の対前年差が大きい銘柄（平成26年産）

単位：円/60kg、トン

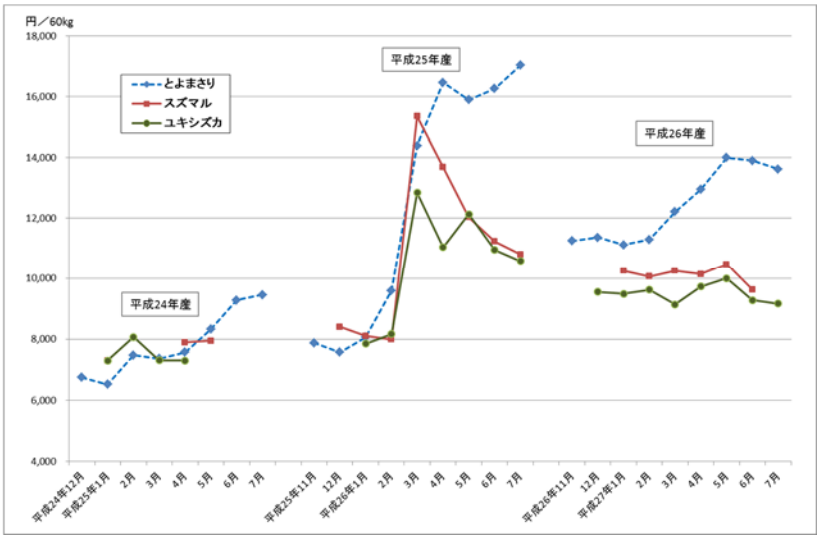
価格が上がった銘柄					価格が下がった銘柄				
順位	産地品種	落札価格	前年対差	落札数量	順位	産地品種	落札価格	前年対差	落札数量
1	青森おおすず	11,976	2,398	1,563	1	宮城ミヤギシロメ	11,922	△ 3,724	2,436
2	佐賀フクユタカ	17,585	2,198	2,841	2	茨城タチナガハ	11,550	△ 3,245	1,049
3	千葉フクユタカ	14,710	2,100	120	3	福島タチナガハ	10,743	△ 3,138	222
4	岩手ナンブシロメ	10,687	2,083	418	4	宮城タンレイ	11,582	△ 2,759	1,461
5	石川エンレイ	12,643	1,908	446	5	宮城タチナガハ	12,104	△ 2,625	1,829
6	鳥取サチユタカ	15,439	1,645	208	6	滋賀ことゆたか	12,994	△ 2,608	990
7	北海道音更大袖振	14,976	1,641	324	7	長野ナカセンナリ	13,530	△ 2,002	531
8	茨城納豆小粒	9,901	1,626	208	8	秋田リュウホウ	12,251	△ 1,592	2,531
9	福岡フクユタカ	17,448	1,504	4,477	9	富山エンレイ	13,036	△ 1,123	1,895
10	熊本フクユタカ	17,355	1,391	1,049	10	愛知フクユタカ	15,325	△ 1,089	2,217

注：落札数量100トン以上の産地品種銘柄について整理した。

図表Ⅰ－1－17　主要産地品種銘柄月別落札価格推移



図表Ⅰ－1－18　北海道スズマル・ユキシズカ月別価格推移
（北海道とよまさりとの比較）



図表１－１－19　北海道とよまさりの落札状況

品種群構成品種別落札状況・年産推移（平成23年産～26年産）

単位：トン、円/60kg

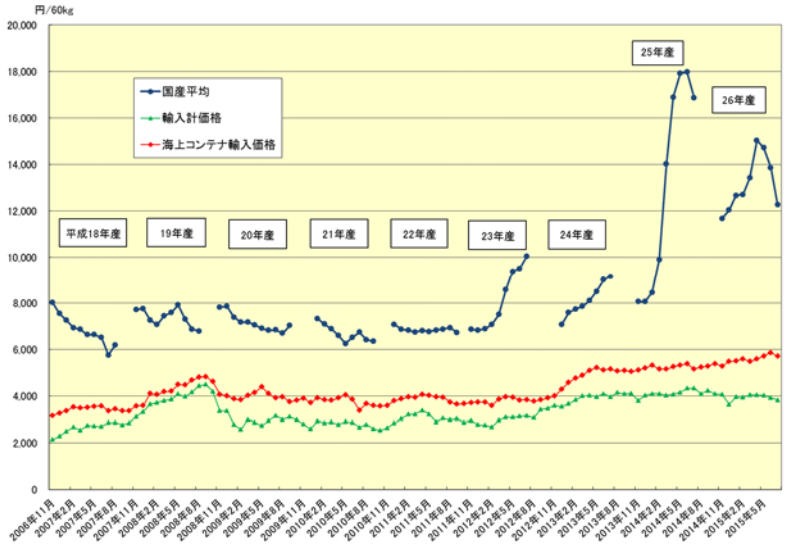
	年産	トヨムスメ	トヨコマチ	トヨホマレ	ユキホマレ	トヨハルカ	とよみづき	とよまさり計
落札数量	平成23年産	1,576	339	0	3,686	265	－	5,866
	平成24年産	636	358	177	6,326	398	－	7,894
	平成25年産	487	496	90	8,528	237	143	9,981
	平成26年産	937	404	58	11,230	229	721	13,579
落札価格	平成23年産	7,318	7,161	－	7,948	6,730	－	7,678
	平成24年産	7,584	7,665	6,849	7,829	7,416	－	7,759
	平成25年産	14,113	13,029	11,201	13,299	14,443	15,459	13,365
	平成26年産	13,250	12,641	12,323	12,189	13,034	12,292	12,296

平成26年産品種群構成品種別落札価格・月別推移

単位：トン、円/60kg

	トヨムスメ	トヨコマチ	トヨホマレ	ユキホマレ	トヨハルカ	とよみづき	とよまさり平均
11月				11,247			11,247
12月				11,360			11,360
1月	12,803	12,160		10,932		10,955	11,115
2月	13,432	12,295		11,068		11,519	11,297
3月	13,732	12,268		12,040	12,283	12,746	12,212
4月	13,520	12,888		12,980	12,380	12,202	12,953
5月	13,399	13,620	12,130	14,247	12,852	13,264	14,002
6月	12,979	12,759	12,390	14,270	13,702	13,248	13,903
7月	12,654	14,070	12,550	13,837	13,613	12,538	13,623
年産平均	13,250	12,641	12,323	12,189	13,034	12,292	12,296

図表Ｉ－１－20　内外大豆価格推移（2008年11月～2015年10月）



資料：国産は月別平均落札価格、輸入は財務省貿易統計

図表Ⅰ－1－21　年産別内外価格差推移

単位：円/60kg

年産	国産 A	輸入海上コンテナ B	輸入計 C	A−B	A−C
平成22年産	6,829	3,864	3,023	2,965	3,806
平成23年産	8,299	3,824	3,043	4,475	5,256
平成24年産	8,145	4,897	3,921	3,248	4,224
平成25年産	14,168	5,253	4,112	8,915	10,056
平成26年産	13,380	5,575	3,860	7,805	9,520

資料：財務省「貿易統計」
注1：輸入価格は、国産価格との比較のため、国産大豆の出回り期に相当する11月から翌年10月までの金額の集計値を数量の集計値で除して産出した。
注2：輸入・海上コンテナは、運送形態が海上コンテナによるものであり、輸入計の内数である。

２　平成 26 年産大豆入札取引の運営に関する特記事項

（１）年産入札取引開始の準備

平成 26 年 8 月に、協会ホームページにおいて平成 26 年産大豆入札取引登録に関する以下の案内を行った。

・新規売り手登録申請受付案内
・新規買い手登録申請受付案内

また、平成 25 年産売り手登録者及び買い手登録者に対し、平成 26 年産取引のための登録手続きについて、文書で案内した。

（２）年産入札取引運営方針

平成 26 年 12 月 12 日に第 47 回入札取引委員会を開催し、以下の運営方針を申し合わせた。

ア　月別入札取引回数の予定

月 2 回実施を基本とし、必要に応じて調整する。

イ　落札大豆の受渡期限

入札日から 60 日以内（前年産と同じ）とする。

ウ　入札取引結果の公表

（ア）公表内容

各月の次の集計値を資料に取りまとめ、各月月末（休日等の関係で日程は適宜調整）に、登録者に配付・公表する。

・普通大豆・特定加工用大豆別産地品種銘柄等・粒別上場数量、落札数量、落札価格
・平均落札価格（普通大豆・特定加工用大豆加重平均値）
・産地品種銘柄「北海道とよまさり」の品種群を構成する各品種別の月別落札結果

（イ）公表方法

公表資料を登録者に郵送するとともに、一般の者も閲覧できるようインターネット上の協会サイトに掲出する。また、農林水産省内農政記者クラブ及び農林記者会に対し、資料配付を行う。

（３）入札販売計画の作成

売り手は、新たな年産の入札取引開始前に、年間、時期別、産地品種銘柄別の入札販売予定数量を定めた入札販売計画を作成し、協会に提出することとなっている。協会は、売り手である全農、全集連から提出された上記計画を統合・整理して平成 26 年産大豆入札販売計画を作成し、平成 26 年 11 月に買い手に通知した。

（平成 26 年産大豆入札販売計画は、第Ⅱ部 資料編の 3 を参照）

（4）取引監視

平成 26 年 12 月 18 日に第 31 回取引監視委員会（全体委員会）を開催し、取引監視の方針について審議した。また、入札取引の実施回ごとに取引監視委員 3 名の立会のもと取引監視を行い、不正な入札がないことを確認した。

平成 26 年産入札取引が完了した後、平成 27 年 8 月 11 日に第 32 回取引監視委員会（全体委員会）を開催し、取引監視の経過について審議し、無効札の状況について、下表のとおり報告した。

平成 26 年産の入札ロット数は、前年産より大幅な増加したが、無効札ロット数はむしろ減少した。無効札の発生事由については、大部分が保証金不足（当該入札回の入札金額の総額が保証金残高の 10 倍を超えたもの）によるものであったが、1 事業体の複数事業所で同一ロットに入札したことにより無効とされたケースもあった。

図表Ⅰ－2－1　年産別無効札発生状況

年産	入札ロット数	無効札ロット数		有効札ロット数
			うち保証金関係	
平成19年産	13,563	231	215	13,332
平成20年産	5,328	16	7	5,312
平成21年産	3,319	12	0	3,307
平成22年産	4,770	0	0	4,770
平成23年産	11,602	169	0	4,770
平成24年産	21,639	440	440	21,199
平成25年産	25,512	141	141	25,371
平成26年産	31,953	129	123	31,824

３　平成 26 年産入札取引に係る平成 26 年度協会業務・財務資料

（大豆入札取引業務関係部分の抄録）

（ 注：大豆入札取引は、大豆取引年度（当該年の 11 月～翌年 10 月）に実施されるため、会計年度は平成 26、27 年度にまたがることとなる。）

（１）平成 26 年 3 月 20 日に開催した平成 25 年度第 2 回理事会において、平成 26 年度（平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月）事業計画及び収支予算案を議決した。そのうち、大豆入札取引業務関係部分は、以下のとおりである。

平成 26 年度事業計画

第１　事業計画

（前略）

また、国民の食生活に不可欠な食料である国産大豆については、現在の食品用としての需要量に対する生産量が約 20%と安定供給には程遠い水準であるため食品業界・消費者等のニーズに対応した良質な国産大豆の供給の拡大が急務となっている。

このような状況の中、平成 26 年度は、（中略）②国産大豆の需要の拡大を図るための価格形成視施設の開設・運営及び情報の収集・提供のための事業を公益目的事業と位置付け事業を実施する。

具体的には、（中略）国産大豆については、入札取引の透明化・適正化の観点から中立的な第三者機関として当協会が入札の取引の実施主体となって市場を開設・運営し入札結果の迅速な公表を行うこと等を行う。

第２　会議等の開催

（前略）

６　大豆入札取引委員会

７　取引監視委員

（後略）

第３　（略）

第４　国産大豆の需要の拡大を図るための価格形成施設の開設・運営及び情報の収集・提供事業

（１）大豆価格形成安定化事業

国産大豆の入札取引の実施主体として市場を開設し、入札取引の透明化・適正化を図るため、次の事業を実施する。

①　大豆入札取引委員会の開催

② 取引監視委員会の開催
③ 入札の実施
④ 入札結果の公表
⑤ 指標価格の作成・提供
⑥ 入札取引を円滑に実施するための情報の提供
（後略）

（２）平成 27 年 6 月 19 日に開催した平成 27 年度定時評議員会において、平成 26 年度事業報告及び平成 26 年度決算案を議決した。そのうち、大豆入札取引業務関係部分は、以下のとおりである。

平成 26 年度事業報告

第１　事業報告
（前略）
また、国民の食生活に不可欠な食料である国産大豆については、現在の食品用としての需要量に対する生産量が約 20％と安定供給には程遠い水準であるため食品業界・消費者等のニーズに対応した良質な国産大豆の供給の拡大が急務となっている。
このような状況の中、平成 26 年度は、（中略）②国産大豆の需要の拡大を図るための価格形成視施設の開設・運営及び情報の収集・提供のための事業を公益目的事業と位置付け事業を実施した。
具体的には、（中略）国産大豆については、入札取引の透明化・適正化の観点から中立的な第三者機関として当協会が入札の取引の実施主体となって市場を開設・運営し入札結果の迅速な公表を行うこと等を行たった。

第２　役員会等の開催
（略）

第３　事業実施の概要
（前略）
２　国産大豆の需要の拡大を図るための価格形成施設の開設・運営及び情報の収集・提供事業

（１）大豆価格形成安定化事業
国産大豆の入札取引の実施主体として市場を開設し、入札取引の透明化・適正化を図るため、次の事業を実施した。
１）大豆入札取引委員会の開催
第 46 回　平成 26 年 9 月 24 日（水）

・出席者 8 名（委員総数 9 名）
・付議された議案
25 年産大豆の入札取引の実施状況
第 47 回　平成 26 年 12 月 12 日（金）
・出席者 7 名（委員総数 9 名）
・付議された議案
26 年産大豆の入札取引の計画及び運営方針（案）

２）取引監視委員会の開催
第 30 回　平成 26 年 9 月 5 日（金）
・出席者 8 名（委員総数 9 名）
・付議された議案
入札取引の監視業務の実施状況
第 31 回　平成 26 年 12 月 18 日（木）
・出席者 9 名（委員総数 9 名）
・付議された議案
26 年産取引の監視方針（案）

３）入札の実施
平成 25 年産
第 8 回　平成 26 年　4 月 16 日
第 9 回　平成 26 年　5 月 16 日
第 10 回 平成 26 年　5 月 28 日
第 11 回 平成 26 年　6 月 11 日
第 12 回 平成 26 年　6 月 25 日
第 13 回 平成 26 年　7 月 30 日

平成 26 年産
第 1 回　平成 26 年 11 月 26 日
第 2 回　平成 26 年 12 月 17 日
第 3 回　平成 27 年　1 月 21 日
第 4 回　平成 27 年　2 月 18 日
第 5 回　平成 27 年　3 月 18 日

なお、入札日当日に 3 名の取引監視委員が立ち会い、取引が公正に行われているか監視するとともに、落札を保留すべきロットの有無を検討した。その結果、落札を留保すべきロットはなかった。

４）入札結果の公表
入札取引が実施された月の入札取引結果について普通大豆・特定加

工用大豆別に産地、粒別、品種銘柄別に上場数量、落札数量、落札価格等の資料を作成し、各月の末日に入札取引参加者、報道機関に提供するとともに協会ホームページで公開した。また、平成 25 年産入札取引年報（冊子）を作成し、入札取引参加者、関係機関・団体に配付した。

5）指標価格の作成・提供

産地品種銘柄ごとに、当該月の落札価格に基づいて入札取引以外の取引目安となるための価格情報を算定し公表した。

6）入札取引を円滑に実施するための情報の提供

大豆入札取引の仕組み、国産大豆供給状況の推移、産地品種銘柄別落札価格の推移、外国産大豆と国産大豆の価格差推移状況等を入札取引関係者をはじめ、実需者、産地関係者等に協会ホームページを通じて情報提供した。

（後略）

大豆価格形成安定化事業収支計算書

（平成26年4月1日～平成27年3月31日）

1　収入　　（単位：円）

科目	26年度予算額	26年度決算額	増減	備考
大豆価格形成安定化事業補助金	25,718,000	25,718,000	0	
大豆価格形成安定化事業運営拠出金収入	8,450,000	6,840,618	1,609,382	
当期収入合計（A）	34,168,000	32,558,618	1,609,382	

2　支出　　（単位：円）

科目	26年度決算額	26年度予算額	比較増△減	備考
入札業務等に要する手当	9,300,000	8,938,160	361,840	入札業務等に要する経費
給与手当	8,000,000	7,796,250	203,750	
社会保険料	1,300,000	1,141,910	158,090	
管理運営等に要する経費	24,868,000	23,620,458	1,247,542	システム運営等管理運営に要する経費
事業費	19,776,680	19,128,844	647,836	
会議費	70,000	0	70,000	
通信運搬費	500,000	370,192	129,808	
借上費	9,000,000	7,983,600	1,016,400	
システム導入費	4,033,760	3,535,260	498,500	
システム改良費	1,368,720	2,326,320	△ 957,600	
システム運営費	4,210,000	4,468,643	△ 258,643	
光熱水料費	100,000	47,510	52,490	
印刷製本費	400,000	319,095	80,905	
消耗品費	94,200	78,224	15,976	
旅費	569,720	347,460	222,260	
謝金	940,000	680,000	260,000	
賃金	2,226,000	2,122,630	103,370	
役務費	460,000	554,904	△ 94,904	
雑役務費	895,600	786,620	108,980	
当期支出合計（B）	34,168,000	32,558,618	1,609,382	
当期収支差額（A）－（B）	0	0	0	

４　平成 26 年産入札取引に係る平成 27 年度協会業務・財務資料

（大豆入札取引業務関係部分抜粋）

平成 27 年 3 月 6 日に開催した平成 26 年度第 2 回理事会において、平成 27 年度（平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月）事業計画及び収支予算案を議決した。そのうち、大豆入札取引業務関係部分は、以下のとおりである。

平成 27 年度事業計画

第１　事業計画

（前略）

また、国民の食生活に不可欠な食料である国産大豆については、現在の食品用としての需要量に対する生産量が約 20％と安定供給には程遠い水準であるため食品業界・消費者等のニーズに対応した良質な国産大豆の供給の拡大が急務となっている。

このような状況の中、平成 27 年度は、（中略）②国産大豆の需要の拡大を図るための価格形成視施設の開設・運営及び情報の収集・提供のための事業を公益目的事業と位置付け事業を実施する。

具体的には、（中略）国産大豆については、入札取引の透明化・適正化の観点から中立的な第三者機関として当協会が入札の取引の実施主体となって市場を開設・運営し入札結果の迅速な公表を行うこと等を行う。

第２　会議等の開催

（前略）

６　大豆入札取引委員会

７　取引監視委員会

（後略）

第３　（略）

第４　国産大豆の需要の拡大を図るための価格形成施設の開設・運営及び情報の収集・提供事業

（１）大豆価格形成安定化事業

国産大豆の入札取引の実施主体として市場を開設し、入札取引の透明化・適正化を図るため、次の事業を実施する。

①　大豆入札取引委員会の開催

②　取引監視委員会の開催

③　入札の実施

④　入札結果の公表

⑤　指標価格の作成・提供
⑥　入札取引を円滑に実施するための情報の提供
（後略）

大豆価格形成安定化事業収支予算書

（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

1　収入　　（単位：円）

科目	27年度予算額	26年度予算額	増減	備考
大豆価格形成安定化事業補助金	25,718,000	25,718,000	0	
大豆価格形成安定化事業運営拠出金収入	8,450,000	8,450,000	0	
当期収入合計（A）	34,168,000	34,168,000	0	

2　支出　　（単位：円）

科目	27年度予算額	26年度予算額	比較増△減	備考
入札業務等に要する手当	9,300,000	9,300,000	0	入札業務等に要する経費
給与手当	8,000,000	8,000,000	0	
社会保険料	1,300,000	1,300,000	0	
管理運営等に要する経費	24,868,000	24,868,000	0	システム運営等管理運営に要する経費
事業費	19,621,000	19,776,680	△ 155,680	
会議費	70,000	70,000	0	
通信運搬費	500,000	500,000	0	
借上費	9,000,000	9,000,000	0	
システム導入費	3,540,000	4,033,760	△ 493,760	
システム改良費	1,651,000	1,368,720	282,280	
システム運営費	4,266,000	4,210,000	56,000	
光熱水料費	100,000	100,000	0	
印刷製本費	400,000	400,000	0	
消耗品費	94,000	94,200	△ 200	
旅費	550,000	569,720	△ 19,720	
謝金	940,000	940,000	0	
賃金	2,226,000	2,226,000	0	
役務費	600,000	460,000	140,000	
雑役務費	931,000	895,600	35,400	
当期支出合計（B）	34,168,000	34,168,000	0	
当期収支差額（A）－（B）	0	0	0	

５　大豆入札取引委員及び取引監視委員名簿

大豆入札取引委員（任期：平成 26 年 6 月～平成 28 年 5 月）

◎　盛田　清秀　　東北大学大学院農学研究科教授
（○）髙橋　徳一　　元財団法人日本豆類基金協会専務理事
（平成 27 年 6 月まで）
○　吉田　岳志　　公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会理事長
生部　誠治　　全国農業協同組合中央会ＪＡ改革対策部総括部長
（平成 27 年 3 月から）
金井　　健　　全国農業協同組合中央会農業対策部長
（平成 27 年 3 月まで）
木内　節雄　　全国納豆協同組合連合会理事
郷　　和平　　一般財団法人全国豆腐連合会理事
瀬藤　芳郎　　元農林水産省東北農政局長
（平成 27 年 10 月から）
林　　英伸　　全国穀物商協同組合連合会理事
藤川　　満　　全国主食集荷協同組合連合会常務理事
本間　光敏　　全国農業協同組合連合会園芸農産部次長
（◎：委員長、○：委員長代理、（○）：委嘱解除まで委員長代理）

取引監視委員（任期：平成 26 年 11 月～平成 28 年 10 月）

◎　盛田　清秀　　入札取引委員・東北大学大学院農学研究科教授
（○）髙橋　徳一　　元財団法人日本豆類基金協会専務理事
（平成 27 年 6 月まで）
○　吉田　岳志　　入札取引委員・公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会理事長
齊藤　　勉　　元農林水産省大臣官房経理課会計監査室長
（平成26年11月から）
瀬藤　芳郎　　入札取引委員・元農林水産省東北農政局長
（平成26年10月から）
竹之内定雄　　元社団法人全国農業改良普及支援協会普及参事
多田　和子　　NPO法人ちば農業支援ネットワーク理事
千原　信彦　　元日本農業新聞論説委員
都甲　忠義　　元農林水産省構造改善局計画部資源課課長
平岩　　進　　元農林水産省北陸農業試験場場長
（◎：委員長　○：委員長代理、（○）：委嘱解除まで委員長代理）

６ 大豆入札取引委員会及び取引監視委員会の開催

（１）大豆入札取引委員会

第 47 回　平成 26 年 12 月 12 日

①平成 26 年産大豆入札販売計画

②平成 26 年産大豆入札取引参加者登録状況

③入札取引の運営方針

第 48 回　平成 27 年 9 月 16 日

①取引監視委員の補充指名（議決事項）

②平成 26 年産大豆入札取引及び取引監視経過

③平成 27 年産大豆生産計画

④平成 27 年産大豆入札取引の運営について

⑤今後の大豆需給と生産・流通のあり方

（２）取引監視委員会（全体委員会）

第 31 回　平成 26 年 12 月 18 日

①平成 26 年産大豆入札販売計画

②入札取引運営方針

③平成 26 年産取引監視方針

第 32 回　平成 27 年 8 月 11 日

①委員長代理指名

②平成 26 年産大豆入札取引経過

③取引監視状況